

平成24年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(玉城町)の概要

2月16日(土)に玉城町の保健福祉会館で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「元気バス」の関係者の皆さん9名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- オンデマンドバスは、運行効率が高く、たくさんのバス停を設置できるなどの利点がある一方、配車や予約の仕組み、サーバの設置コスト、運転手への指示などの課題があった。それを一気に解決したのが、東京大学に協力してもらい導入したこの元気バスのシステムである。
- 利用には会員登録が必要で、名前、住所、電話番号、暗証番号、家族のメールアドレス、自宅の近くのバス停などを設定いただいている。バス停は154箇所、福祉バス(路線型)時代の3倍。運行は、午前9時から午後5時まで、年末年始を除いて毎日運行。30分前から2週間先まで予約ができ、全て無料となっている。パソコンやスマートフォンでも予約可能で、月平均2,300人の方が利用しており、登録者は右肩上がりである。社協で実施している介護予防事業の利用者が運行を開始した平成21年度に比べ4倍に増加していることから、システムの導入により医療費

の抑制にどれだけ効果があるのか分析したい。

スマートフォンに緊急通報ボタンを用意して、緊急ボタンを押すと見守りサービスのサーバが感知して、登録いただいた家族の方にメールが送付されたり、同時にタッチパネルに表示されたりする仕組みを導入している。(会場で実演)

その他、自ら通報できない人の確認のために、1日3回メッセージを出して、その反応を見て対応するという取り組みも取り組んでいる。

どんどん外出機会を増やして、健康増進を進め、地域全体、みんなで見守りをしていこうと取り組んでいる。

Q 元気バスを利用して良かったことや、運行に携わって良かったことは？

一人で家にいた際に腹痛を起こした。スマートフォンの緊急通報で、救急車で病院に運んでもらったが、もう少し遅かったら腹膜炎を起こしていたので、大変助かった。

元気バスがない時は家にこもりきりで友達もいなかった。このバスができて自由な時間を持つことができ、心に余裕もできたことから、ちょっとだけボランティアを始めたところ。

いろいろな人と出会えて良かった。自分が病気した時に声をかけてもらおうと安心するし、嬉しい。

この前、NHKで元気バスが放送され、北海道の知り合いから「元気バスがテレビに出てたよ」と電話があった。そういうのを聞くと嬉しい。

元気バスを利用して図書館まで行き本を読んでいる最中に、もう少し長生きしたいと思うようになった。

今回、元気バスに関わって、普段関わりがない人との交流ができた。研究の中で利用者にインタビューをしたら、元気バスで人生が豊かになったとか、80歳になって今が一番幸せだという話を聞いて、嬉しかった。

元気バスになって、運転手とお客との関係だけでなく、いろいろな人と関係ができ、つながってきているのが嬉しく思う。

Q 元気バスをもっとよくなるために、改善したら良いところや、行政がバックアップしたら良いところは？

いろいろな自治体からオンデマンド交通を導入したいという声をいただくが、自治体で温度差が大きい。こうした自治体を動かすには県や国のバックアップが必要だと思う。

もう少し利用時間が長くなると嬉しいが、十分に満足している。

玉城町だけでなく、明和のイオンや多気の温泉などへ行きたいという方もいるので、週に1回でもいいので、行けないかと思うことはある。

玉城町外の施設に行きたいというニーズもあるので、協調して広域的に運営ができたらなと思う。また、路線バスには補助金があるが、元気バスはふるさと雇用の基金があって、たまたま活用できたただけなので、こういったところにも三重県の方から援助があったら、広域的に取り組めるのではないかと思う。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

移動手段がなく、家にこもりがちだったのが、元気バスのおかげで自由に外出できるようになり、さらにそこから誰かの役に立てるようになったというのは素晴らしいこと。

元気バスがNHKで放送され、三重県のPRにもなっているというのは嬉しいこと。オンデマンドバスの導入について、自治体ごとに温度差があるのはわかる。玉城町をモデルに県内の他の地域にも広げていくこともよく考えていきたい。

玉城町外の運行については、利用者の方のニーズは高そうだが、ルートやオペレートのことを考えると難しい部分があるかもしれない。

今日は大変いい話、前向きな話を聞いた。利用している人の満足度が非常に高いことが分かった。行政に近い主体が提供するサービスでこのように満足度が高いことはなかなかない。課題もあるが、このサービスにより、皆さんが生き甲斐、命、つながり、感謝ということを得ることができたのは本当に大きなことだと思う。



【「元気バス」の関係者の皆さんとは】

元気バスは、利用者が事前に申し出た乗車場所や時間にバスが向かい、希望する目的地まで運ぶオンデマンドによるバス運行システムです。

玉城町が平成21年11月から東京大学大学院と共同研究により実証実験を行っており、玉城町社会福祉協議会がバスを運行しています。

バスの利用は、登録会員が事前に電話、スマートフォンやインターネットで乗り降りするバス停、希望の出発時刻及び到着時刻を予約します。

すごいやんかトークには、元気バスの利用者の皆さん、予約のオペレーター、運転手の方、東京大学大学院で研究を行ってみえる大学院生の方に参加いただきました。

